

2020年早稲田大学 大学院法務研究科の新たな試み

法務研究科研究科長 松村 和徳^{まつむら かずのり}

2020年度から、法科大学院制度は、新たな時代へとその一歩を踏み出しました。すでにご承知の方が多いかと思いますが、学部「法曹コース」を創設し、学部教育と連動させた「学部3年・法科大学院2年」の5年一貫の法曹教育を中心とした新たなシステムが開始したのです。法科大学院制度は、これまで毎年のように、様々な変革の実行を求められ、制度それ自体が大きく変遷してきました。今次の変革の中心である、この5年一貫の法曹教育システムは、法科大学院制度の最後の改革と位置づけられています。これにより、早稲田法学部と早稲田法科大学院は、一体となって、早稲田の法学教育をより充実させ、多くの優秀な人材(早稲田法曹)を世の中に送り出す使命と責務を負うことになります。その重さを痛感しつつ、この取組みに対して、法務研究科教職員は、早稲田の学生のために、そして早稲田大学法学教育の評価をより一層高めることをめざして、これまで以上に汗を流す覚悟をしています。

そうした中、今年は、コロナウイルスの影響で、当初予定していた様々な取組みが実行できない状況に至っており、軌道修正を余儀なくされております。学生への授業もすべてオンライン授業となっており、これまで蓄積されてきた教育方法が十分に活用でき

ない状況でもあります。新たな授業方法の中で、いかに実効的に学生の法曹としての能力を向上させていくか、毎日模索の日々が続いております。他方、研究室、図書館等

が自由に使用できない状況が続く、教員の研究活動はほぼストップしている状況です。研究と教育は、法科大学院教育にとって車の両輪の関係にあります。現状は、両輪は十分に動いているとは言えません。従前の生活・社会状況に戻るか、今後の予測が十分に立たないところではありますが、我々早稲田法科大学院は、できるだけ早く従来の状況を取り戻し、またはその時々状況に柔軟に対応しつつ、新たな法曹養成教育システムのなかで「挑戦する法曹」の輩出を目指していきたいと考えております。そのためには、我々の取組みに対する、「梓」に集う皆様の叱咤激励が我々にとって最も力強いエールとなります。今後とも、法務研究科の新たな試みに温かいご支援とご協力を賜れば幸いです。よろしくお願い致します。



修了式・入学式の中止について

コロナウイルスの影響により、2019年度修了式、2020年度入学式は中止となりました。研究科長から直接お祝いの言葉を伝えることはできませんでしたが、webページを通じて修了生、新入生へお祝いを述べさせていただきました。

法務研究科における オンライン授業の取り組みについて

法務研究科教務主任（教務担当） やまもと けん 山本 研

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、法務研究科におきましても、2020年度春学期については、授業の開始時期を繰り延べるとともに、全ての授業をオンライン形式で実施することとなり、試行錯誤しながらも、その取り組みを進めております。

まず、授業日程につきましては、当初の学年暦においては4月6日(月)からの授業開始を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に対応し、全学的に授業開始日が5月11日(月)に変更されました。そのため、他の研究科や学部においては、春学期については12回の授業実施となりましたが、専門職大学院である法務研究科においては、15回の授業回数を確保する必要性が高いことから、4月20日(月)からの3週間を授業準備／補講期間と位置づけ、オンライン授業実施の準備が整っている科目については、この間も先行的に授業を実施することとし、また、5月11日から授業を開始する科目についても、補講を実施することにより、いずれの科目においても15回の授業回数を確保することとしております。

つぎに、授業の実施方法についてですが、当初は感染防止に十分留意した上で、教場において授業を実施する方策を模索して参りましたが、緊急事態宣言が発令されるなどの状況の変化を踏まえ、最終的には、春学期については全ての授業について、インターネットを利用したオンライン授業を実施することとなりました。具体的な方法としては、①リアルタイム配信（Zoom等のオンライン会議システムや

Waseda Moodle（早稲田大学の授業支援システム）を利用し、時間割通りの時間帯に同時中継で授業を実施する方式）、または、②オンデマンド配信（授業の様子をあらかじめ録画し、Waseda Moodle等にアップロードした動画を履修者が視聴することによって受講する方式）のいずれかによるものとしております。現在のところ、リアルタイム配信とオンデマンド配信の割合は4：3程度であり、また、開講科目のおよそ7割近くが4月20日の週からオンラインによる授業を開始しております。



全面的なオンラインによる授業の実施は、教員・学生の双方にとって初めての経験であるため、機器やソフトウェアの操作への習熟はもとより、オンライン授業時における学生の顔出しの要否、成績評価における平常点の取り扱い、通信障害によりリアルタイム配信に参加できない学生のフォロー、さらには学生の通信料負担の軽減のための方策など検討しなければならない課題も多々ありますが、教員、学生、さらには事務所スタッフの協力を得ながら、現在のところまでは大きなトラブルもなく春学期のオンライン授業を進めることができております。また、こうしたオンライン授業の経験が、新型コロナウイルス感染症の沈静化後の新たな日常における教育手法の多様化にも繋がることを期待しているところです。

稲門奨励賞受賞者

稲門奨励賞は、稲門法曹会と早稲田ロースクール稲門会が共同で設けた賞であり、早稲田大学大学院法務研究科において、課外活動や社会貢献活動に積極的な学生の功績を表彰することを目的としております。

本年度も多数の優れた応募者の中から、2名の学生（共に2020年3月大学院法務研究科修了）が本賞を受賞しました。

【氏名・受賞理由】

- | | |
|---|------------------------------------|
| ● <small>あべ</small> 阿部 <small>りょうた</small> 凌大 氏 | 法教育の分野にて、学際組織を立ち上げる等高い公益性を持つ活動を行った |
| ● <small>おおくら</small> 大倉 <small>ゆり</small> 由莉 氏 | 国際会議で意見発表する等、自らの関心分野について独自の活動を行った |

新任教員紹介

2020年4月から早稲田大学大学院法務研究科の専任教員等として着任された先生方をご紹介します。(資格、氏名五十音順)



こまがた かずき
駒方 和希 教授

主な研究テーマ：検察実務

主な経歴：2000年4月東京地方検察庁検事に任官。以後、千葉、佐賀、横浜、東京、福島、福岡の各地方検察庁で勤務したほか、法務省、消費者庁への出向等を経験。前職は、横浜地方検察庁総務部刑事政策総合支援室長。

ひとこと：学生の皆さんにとって、刑法・刑事訴訟分野の判例や学説等は、時には無味乾燥に感じられることがあるかもしれません。しかし、実際には、これらの判例・裁判例の背後には、現実の事件があり、実在する事件関係者がおり、判例や学説等を踏まえつつ、それぞれの立場から知力を尽くして主張を組み立てた弁護士や検察官、判断を下した裁判官が存在します。そのような実務のイメージを少しでも感じ取ってもらえるような授業を行うように努めていきたいと思っています。



よこち だいすけ
横地 大輔 教授

主な研究テーマ：民事裁判実務

主な経歴：2000年早稲田大学法学部卒業、2002年東京地裁判事補に任官、以後、岡崎、広島、大阪、都留、高松と異動し、2020年より現職（東京地裁判事）

ひとこと：任官以来、裁判所の現場で、地裁、家裁、高裁など色々な立場から主に民事系を中心に仕事をしてきました。民事事件は、法律という道具を使って、社会的紛争の解決、利害者間の利害調整を図るものではありませんが、単に法律の知識をそのまま当てはめるだけではなく、その背景にある社会通念や関連事情などを見極め、情理を尽くして個別的に解決をしていくべきものです。講義においては、民事裁判実務の基礎・応用を学習するとともに、このような視点が、実体法の解釈・運用や民事裁判における実際の手続にどのように反映しているのかについて、実務家の観点からお伝えできればよいと思っています。



よもり ゆきこ
世森 ユキコ 教授

主な研究テーマ：刑事訴訟実務

主な経歴：1999年早稲田大学法学部卒業、2001年東京地裁判事補に任官。以後、豊橋、大阪、倉敷、大分、姫路と異動し、2019年より東京地裁にて勤務。

ひとこと：懐かしい母校と再びこのようなご縁をいただいたことを大変嬉しく思っております。実務での経験を生かし、刑法や刑事訴訟法が、実際の刑事裁判でどのように適用されているのかを具体的にイメージできるような授業を心がけていきたいです。また、刑事裁判は、裁判員制度の導入から10年を超え、さらに充実した審理・評議を目指して、法曹三者の不断の努力がなおも続けられているところです。そんな実務の雰囲気や面白みについても、少しでも伝えられたらと思っています。

退職教員のご紹介

【任期満了】

●秋田 志保 教授 ●進藤 壮一郎 教授 ●西尾 健太郎 教授

法務教育研究センター助手 嘱任のご挨拶

法務教育研究センター助手 道上 貴美子

主な研究テーマ：損害保険実務

主な経歴：早稲田大学法学部卒業、早稲田大学大学院法務研究科修了。弁護士として都内法律事務所に4年間勤務した後、2018年消費者庁入庁（消費者安全課事故調査室）。2年間任期付公務員として勤務し、本年3月より神戸ブルースカイ法律事務所にて勤務。2014年より早稲田大学大学院法務研究科アカデミックアドバイザー（AA）、同アカデミックコーディネーター（AC）（2019年末まで）。

ひとこと：弁護士としては、交通事故事件を中心とした損害保険業務全般を扱っています。今日の自分があるのも、早稲田で出会っていただいたすべての方々のおかげと感謝しております。在学中及び修了後の自身の経験を踏まえ、本研究科の魅力をたくさんの方々に知っていただけるよう努めてまいります。



修了生からのメッセージ

2020年3月大学院法務研究科修了 ^{ますだ りょうた} 増田 亮太

私にとって早稲田大学法務研究科は、自分が知らなかった広い世界を教えてくれた場所でした。特にエクスターンシップ・プログラムでは、助けなければと思える依頼者が目の前にいる状況を知り、また、犯罪被害者支援の現場で信念を持って携わる先生と実際にお話をさせていただいたことで、実務で働くみなさんの高いレベルに圧倒されながらも、広い世界で将来どのように働いていきたいかを具体的に考える代えがたい体験をさせていただきました。そして、日々の授業では、暗記ではなく本質的な理解を地道に積み重ねた上で、それを前提として自分の頭で精一杯考え抜くことの大切さを痛感し、法律家として大事なことの一端を体得できたと思います。このように、在学中に学び取ったことを活かして、いつか社会に貢献できるようにこれからも研鑽を積んでいきます。

ところで、ロースクール生には、教員等から与えられるにしろ自己設定するにしろ、多くの課題が与えられるものです。それは目の前の壁に挑戦する機会であるとともに、時として挫折を味わい、つらい思いをすることもありました。1人で頑張る続けるだけではいつか潰れてしまったと思いますが、無事に修了することができたのは、先生方、AAやチューターの方、そしてロースクールの友人の支えがあったからです。学修面では、オフィスアワーやAAやチューターの方による手厚いサポートがあり、日々の悩みを解消していただきました。また、2年次以後の必修クラスは半年に一度クラス替えがあることで、より多くの同期と出会いたくさんの友人関係を築き、研鑽し合うことができました。そして、学校内外を問わず、早稲田の先輩方には、在学した2年間の様々な機会において、後

輩である私たちにとても親身になって接していただきました。この度法務研究科を修了して稲門同窓生の仲間入りができたことを誇りに思い、先輩方が私たちにしていただいたことを今度は私たちが受け継ぎ、同窓生・後輩へと少しでも返していきたいと強く思っております。



中央が本人

今般の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、リモート授業の準備を行う先生方も学修する在校生も、平常どおりの体制ではなく様々な困難に直面されていることと存じ上げます。例年どおりにはいかないこともあるとは思いますが、在校生のみなさんは苦しいことがあったら、ぜひ先生方や法務研究科の事務所の方々、AA・チューターに臆せず積極的に助けを求めていただければと思います。また、今年の司法試験の日程が変更となり、受験する修了生も想定外の対応を強いられていました。それぞれ置かれている状況は違うので軽々には言えませんが、修了生の1人としては、この未曾有の事態の中で司法試験の受験を迎えた以上、環境に振り回されすぎずに成長をし続けていく強さをこの機会に得て、来たるべき平穏な未来を迎えることを祈っております。

最後になりますが、在学中の2年間、数え切れないほどの人と出会い、入学前には考えられないくらい多くのことを折々に学ばせていただきました。早稲田大学大学院法務研究科で学ばせていただけたことは、とても幸運なことでした。誠にありがとうございました。

法務研究科 オリジナルキャンバストートバッグ

グッズを手に取り、親近感を持ってもらいたいという思いから大学院法務研究科のオリジナルのトートバッグを製作しました。早稲田キャンパス、大隈庭園前

UniCafe125内のWasedaSHOPで販売しております(1,000円/税込)。ぜひこの機会にご購入ください。インターネット経由でも、ご購入することができます。

「梓」送付停止や、送付先のご住所・ご勤務先の変更等をご希望の場合は、以下の申請フォームにて申請をお願いいたします。代理の方による申請も可能です。なお、代理の方はお手数ですが、封書の破棄をお願いいたします。

<申請フォームURL>

<https://www.waseda.jp/>

[fo law/gwls/alumni/wls-news-letter/](https://www.waseda.jp/fo law/gwls/alumni/wls-news-letter/)

早稲田 梓

検索

稲門法曹奨学金へのご寄付についてのお問合せ

早稲田大学大学院法務研究科

Tel : 03-5286-1678 Fax : 03-5286-1720

2020年9月10日 発行

編集・発行 早稲田大学法務教育研究センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

Tel : 03-3208-9592 / Fax : 03-5286-1720

Email : law-school-cpler@list.waseda.jp

<https://www.waseda.jp/fo law/cpler/>